

# 来海米子東出 充実の2年目



やりがいを実感しながら成長を続ける来海泰志。錦海ボートコース

## ボート突き詰める

パラローイング日本代表コックスの来海泰志(米子東高出)が、代わって2年目を迎えた。クル時代の全国トップレベルの一体感を醸成してスピードを上げるコックスのやりがいを見出し、研さんに努める。コックスは艇における「指揮官」の役割。最短距離でフィニッシュできるようにリーダー(かじ)を操作し、コースの状況を把握しながら的確に指示を出す。推進力を高める。来海は昨年4月に日本代表に指定された。小学2年からローイングを始め、米子東高時代は全国高校総体にも出場。早大入学を機に大

大学3年でのメインレースの「対校エイト」のコックスを任せられた。自分でも手応えを感じ、どの「リーダーワーク」で接戦を僅差で制した。おまえじやなかったら負けていた」という仲間間の言葉は自信になっている。卒業後に所属したチームに、東京パラリンピックに出場したコックスがいたことが、日本代表を目指すきっかけになった。パラローイングは目が見えなかったり、体に障害がある選手が一緒に乗る。「4人がそろわないとスピードが出ない。競技の魅力が詰まっている」とやりがいを実感。「大好きなボートを突き詰めている」。情熱は高まるばかりだ。(足立篤史)



## 川口和久の「投両断」

4月29日に閉幕した高校野球の春季鳥取県大会。最終日はバックネット裏から観戦した。試合前のシートノック、ボール回しをみれば、だいたいのチーム力は推測できる。

### 打撃もリズム

優勝した鳥取城北は今春の選抜大会を経験したばかりあって、打撃は積極的にバットを振っていた。打撃は

## 高校野球春季鳥取県大会を見て



試合を観戦する川口さん。ヤマタススポーツパーク野球場

# 甲子園2勝へ挑む

ムが大事だと思う。終盤の1、2点を争う場面は別にして、良い球は初球からでも狙った方がいい。投手陣の体格がよく、二

つ盗塁を刺した主将の河西捕手の肩も光った。決勝で戦った米子松隆にも力のありそうな選手がい

速が上がったり、現状のフォームでは、投げきれないコースも投げられるようになる可能性がある。3位決定戦を戦った2チ

ームは同等の実力を持ち、最後はミスをした方が負けという実力伯仲の試合だった。それぞれに持ち味があり、鳥取商は投手力がよかった。昨夏の甲子園を経験した山根投手は、体の使い方がよく、特に体の可動域が広い。八頭は打線が面白い。山根投手の投球に対し、しっかりと引きつけて逆方向へ打ち返していた。

### ゾーンの把握

もう一つ、注目したポイントとは、ストライクゾーンだ。大会前、審判委員の皆さんには正確に判定してほしいとお願いした。投手はゾーンをしつかり把握して投げることで成長できる。審判も投手を育てる

選手は長年やってきたことに対し、柔軟にマイナーチェンジできるかどうか。成長するには、野球に対する情熱も必要になる。

## パラローイング日本代表コックス

大学3年でのメインレースの「対校エイト」のコックスを任せられた。自分でも手応えを感じ、どの「リーダーワーク」で接戦を僅差で制した。おまえじやなかったら負けていた」という仲間間の言葉は自信になっている。卒業後に所属したチームに、東京パラリンピックに出場したコックスがいたことが、日本代表を目指すきっかけになった。

## 高岡倉吉 山中 布勢 中本 大山 大会新

小学生クラブ 対抗陸上大会	陸上の小学生クラブ 対抗大会は4月23日、 大山町総合運動公園陸上競技場で行われ、女子5・6年800以	高岡倉吉 (TF倉吉) 14秒91、 山中 (TF倉吉) 15秒43、 布勢 (TF米) 15秒49	倉吉 (TF倉吉) 14秒91、 川崎 (TF倉吉) 15秒43、 山根 (TF米) 15秒49
中学生クラブ	高岡倉吉 (TF倉吉) 14秒91、 山中 (TF倉吉) 15秒43、 布勢 (TF米) 15秒49	倉吉 (TF倉吉) 14秒91、 川崎 (TF倉吉) 15秒43、 山根 (TF米) 15秒49	倉吉 (TF倉吉) 14秒91、 川崎 (TF倉吉) 15秒43、 山根 (TF米) 15秒49

## 村上 鳥取連覇 女子個人

新体操中国  
高校県予選

(鳥取西) 50・050点② 浜本 (鳥取敬愛) 47・20 0点③北村 (鳥取西) 42・	150点④森山 (鳥取西) ⑤綿本 (鳥取西) ⑥長江 (鳥取北)
--	--------------------------------------

## 6万人の気持ち背

浦和、きょう決勝

新体操女子の中国高校選手権鳥取県予選は3日、ヤマタススポーツパーク体育館で行われ、個人総合は村上真萌(鳥取西)が2年連続の優勝を果たした。種目別のボールとクラブの2種目を制して頂点に立った。

サッカーのアジア・チャンピオンズリーグ(ACL)決勝第2戦で、J1浦和が6日午後6時から埼玉スタジアムでアルヒラル(サ